

昭和六十一年八月

郷土の由来

守山市浮気町

発行に寄せて

浮気自治会長

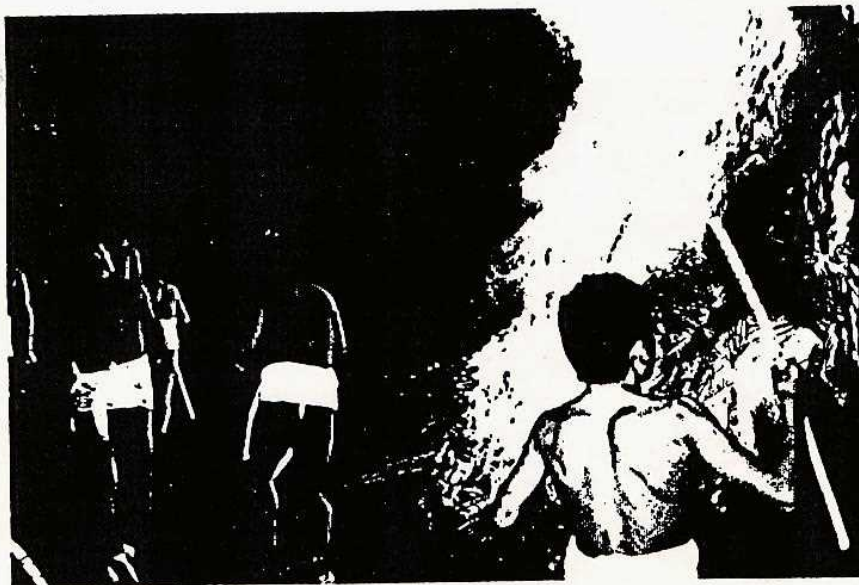
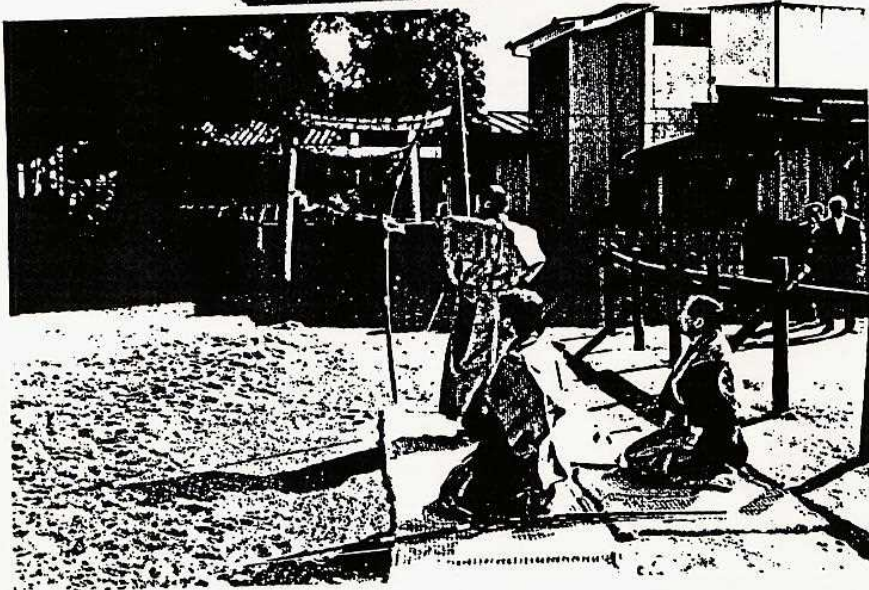
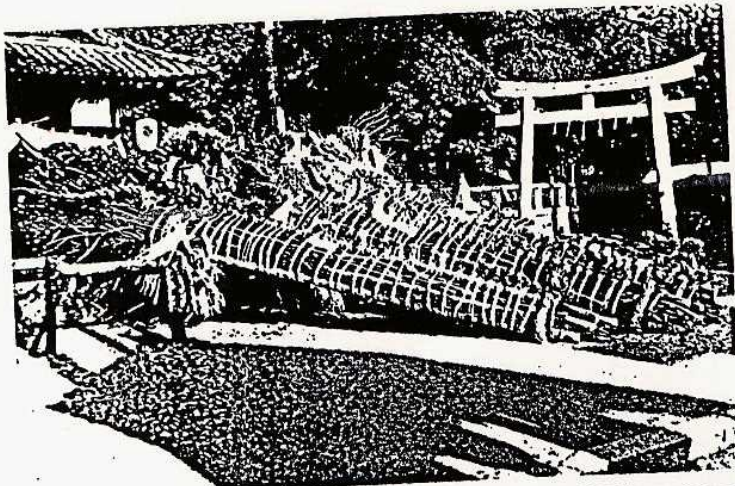
大西芳三

私どもの浮気町は美しい自然に恵まれ 古い歴史と文化の中に今日を
迎えて参りました

清らかな川の流れにも 古い家 新しい建物の並らぶ街角にも力強い
祖先の派将が感じられます 静かに振返つてみまするに 今日
まで人々に知られることなく 文化を興こし 支えられてきた隠れた力
人もあると思います 来るべき二十一世紀に向つて新しい浮気町
としての町づくり 古い歴史文化を究明して行く上に郷土の由来が
発行されることになり 浮気町由来に継ぐ本書の発行により
浮気町文化の基礎が次々に究められて行くことを願つてやみ
ません

昭和六十二年八月

◀浮気町 火まつり(宗遊)





我が町、浮気町

我が町、浮気町は野洲川に近い関係から伏流水が豊富で昔から少し地面を掘つても水が湧き出て、いつも水蒸気が立ちのぼり水気が浮き漂うような地帯という所からこの名がついたと言われる。

戦国時代このあたり一帯を治めていた豪族浮気氏は佐々木氏の下で勢力を持ち元龜元年（一五七〇）六月佐々木六角の命で織田信長の軍勢と野洲川で戦うべく出撃したものの敗北、浮気城も歴史から姿を消してしまつたのである。

次に住吉神社由緒略記によれば氏神の住吉
神社の祭神は櫛玉鏡速日命くしたまにぎはやひのみことであり物部
氏の遠祖であるといわれる 物部氏を祭る
物部神社は当町の南方百メートルの地に俗
称サンヤレ山という小高い丘があつたのが旧趾
であり（大正十二年耕地整理のためその形を失う）物部守
屋七世の孫、物部玉岡宿禰道足（浮氣道足）は
栗太県主としてこの地を領有していた人皇
四十五代聖武天皇天平十一年春（今より一三〇〇年前）
この地に降臨し給う道足これを感得し

住吉三神を勧請せりというしかしていつの頃か
物部神社の祭神を合祀し脇宮に十禅師権現を分
祀したのが当社の由緒である。

後 承久二年（今より約七六〇年前）浮気定勝が本社を
再建し 寛永十六年（今より約三六〇年前）また再建し
たと伝えられる 例祭（おこない）は毎年一月八日松明
十二本（現在は六本）を当日氏子潔斎総出仕して神前
に供へ御弓式・大鼓式・無言の盃等の行事のあと
寒夜、裸体にて神火を松明に移し火災天をも
焦す中を「へえよ、へえよ（御憐平癒）」と口々に唱

住吉三神を勧請せりというしかしていつの頃か
物部神社の祭神を合祀し脇宮に十禅師権現を分
祀したのが当社の由緒である。

後 承久二年（今より約七六〇年前）浮気定勝が本社を
再建し 寛永十六年（今より約三六〇年前）また再建し
たと伝えられる 例祭（おこない）は毎年一月八日松明
十二本（現在は六本）を当日氏子潔斎総出仕して神前
に供へ御弓式・大鼓式・無言の盃等の行事のあと
寒夜、裸体にて神火を松明に移し火災天をも
焦す中を「へえよ、へえよ（御憐平癒）」と口々に唱

この例祭の日はどこの家でも昔からうどんで来客をもてなしているので「うどん祭り」とも言われる程であるがその理由はわからない 正月三ヶ日よりこの祭の日は我が町の本当の正月気分である。

五十年前の浮気は水清く湧出し、清い水にしかすまない金シヨコという魚が川に泳ぎ大きな川には魚がたぐさんに今は枯れているが源昌寺池から湧き出る清水は在所の中をくまなく廻って田圃の用水に利用できるように流れている 夏は冷めたく冬は温かくどこの家庭でもこの川で朝夕の食事の

支度の水に使用され風呂の水吸みにもこの川から
していたのである。

小字名では東筋から中筋を通り西筋から西の
口角街道、五反田、井田から中の町へと流れていた
湧き出る冷水よりも水を温めてから田圃へ入れるよう
に在所を一廻りしているこれも農作物の増収と住
人の多目的利用をと昔の人はよく考えてつくつて
くれているものである。

我が町の町名古い伝統今に伝わる古式の祭典流域
の河川等々変遷する今日でも大切にしなければならぬ

昭和六十一年八月

文校正 西村長浮

執筆 谷浩雲